

# 猛威ピークこれから

## 複数ウイルス、決め手なく

### インフルエンザ

インフルエンザが各地で猛威をふるっている。ウイルスが複数に及び、治療の決め手もないため、抵抗力のない高齢者や児童からは死者が出て、重症になる例も目立つ。「寒くなるこれからはピーク」で、今のところ沈静化する気配はうかがえない。うがいと水分補給を心がけるなどの予防策が必要になってきた。(一面参照)

#### ●岐阜

岐阜県小児科医学会と岐阜市医師会は、今年からインフルエンザの患者数をインターネットで連日知らせている。二十九日現在の患者は六百三十九人。小児(十五歳まで)二百五十人、成人(十六歳から六十九歳まで)三百四十六人、老人(七十歳以上)四十三人、圧倒的に大人が多い。同市医師会の河合直樹理事は「ピークが過ぎたと考えるのはまだ早い」と注意を呼びかける。

岐阜市の医療機関で点滴を受けていた時計販売業の男性(五十)は「前日の昼から鼻水が出て、のどが痛くなった。熱は三八度出て頭がぼーっとしている。気持ちが悪

いと、圧倒的に大人が多い。同市医師会の河合直樹理事は「ピークが過ぎたと考えるのはまだ早い」と注意を呼びかける。

悪いけれど、今日はこれから仕事がある」と、だるそうな表情。この医療機関の医師は、「今年は、会社や家族間で感染する大人が目立つ」という。

岐阜市医師会によると、二十九日までの幼稚園や保育園、小中学校の欠席者数は千四百八十四人になっている。

一方、県民生部の二十八日までのデータでは、特別養護老人ホームなど八十六施設で、百一人がインフルエンザで治療を受けた。入院患者も十九人いた。

#### ●三重

三重県では、二十八日午後、員弁郡内の小学校四年生の男児が死亡するなど、この度近い高熱、下痢、吐き気などを訴えている。

三重県では、二十八日午後、員弁郡内の小学校四年生の男児が死亡するなど、この度近い高熱、下痢、吐き気などを訴えている。

同県国保・高齢対策課が、県内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設計百二十七カ所を調べたところ、昨年十二月から今年二十四日までに、インフルエンザに感染した

#### 救世主になるか新薬

インフルエンザの治療薬として昨年十一月に承認されたアマンタジンという飲み薬を東京都世田谷区の開業医、神津仁さんは数年前からインフルエンザ治療に使っていた。発症から四十八時間以内に飲むと解熱が早く、全身けん怠感がすっきりする。体力の消耗が少ないため細菌性肺炎などの合併症を起こすこともほとんどない、という。

#### 東京の開業医が紹介 早い服用で重症防ぐ

とみられる入所者は計四百二十二人いた。

このうち、特別養護老人ホームに入所していた女性(当時九二)が昨年十二月、老人保健施設に入所していた男性(同九二)が一月に肺炎で亡くなった。

県教委は二十九日、県立学校と市町村教育委員会に、集団かぜの予防対策の徹底を文書で通知。国保・高齢対策課も二十一日に施設に予防の徹底を通知している。

#### ●愛知

愛知県衛生部によると、昨年



インフルエンザで来院した患者を診察する医師。29日午前11時55分、岐阜市金屋町一丁目自の病院で

日まにか、高熱、下痢、吐き気などを訴えている。同県国保・高齢対策課が、県内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設計百二十七カ所を調べたところ、昨年十二月から今年二十四日までに、インフルエンザに感染したとみられる入所者は計四百二十二人いた。このうち、特別養護老人ホームに入所していた女性(当時九二)が昨年十二月、老人保健施設に入所していた男性(同九二)が一月に肺炎で亡くなった。県教委は二十九日、県立学校と市町村教育委員会に、集団かぜの予防対策の徹底を文書で通知。国保・高齢対策課も二十一日に施設に予防の徹底を通知している。